

開設講習名	【選択】世界の教育改革と日本の教育課題 (子どもの貧困問題)		講師	小川 勤	
講習会場	山口大学吉田キャンパス		会場所在地	山口県山口市	
開設日	平成 29 年 12 月 23 日		時間数	6 時間	受講予定人数 60 人
受講者募集期間	平成 29 年 9 月 26 日～平成 29 年 10 月 4 日		履修認定時期	平成 30 年 1 月 15 日まで	
履修認定対象職種	教諭, 養護教諭, 栄養教諭	主な受講対象者	全教員		
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			
【到達目標】 本講義終了時に受講者が以下のような具体的な資質を身に付けることを到達目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・新自由主義の教育思想の立場から世界の教育改革の動向を分析し、その改革手法について説明することができる。 ・サッチャー・ブレア政権が行なった英国の教育改革の功罪と日本における教育改革との関係を理解し説明できる。 ・フィンランドにおける教育改革の特徴を説明することができる。 ・子どもの貧困と学力格差問題およびその改善方法等について自分なりの考えを述べることができる。 					
【講習の概要】 世界の教育改革の動向と今後の日本の教育の方向性について論じる。日本の教育は、現在さまざまな課題を抱えている。これらの課題は、海外の国々にとっても共通の課題となっていることも多く、それぞれの国で様々な教育改革が行われている。そこで、本講義では比較教育の視点から、世界の主だった 2 つの国(英国とフィンランド)の教育改革について解説をするとともに、日本が今後推進すべき教育改革の方向性について論じる。また、現在、日本の教育が抱えている様々な課題のうち、子どもの貧困問題と学力の関係について論じる。 具体的な講義内容は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> ① 英国のサッチャー・ブレア政権が行なった教育改革を参考に、新自由主義思想に基づく教育改革の特徴とその功罪について講義する。 ② 世界 1 位の学力と言われるフィンランドにおける教育改革の実態と特徴を明らかにする。その際に、フィンランドの PISA 試験の結果や小学校における時間割などの分析を通してフィンランド教育の特徴を考える。 ③ 子供の貧困問題と学力格差の関係を明らかにするとともに、貧困の連鎖を解消する方法や貧困家庭の子どもたちの学力補充のための方策について考える。 					
【評価の方法・評価基準】 評価の方法：筆記試験 評価基準： 合格：講義の内容を理解し、説明できる。また、講義を聴いた上で自分なりの教育改革を考えることができる。 不合格：上記以外					
【テキスト・参考文献】 事前に講義用レジュメ(穴埋め方式)を配布予定。					
【受講者への伝達事項】 講義用レジュメ (穴埋め方式)を事前に配布する予定ですが、事前に予習する(穴埋め部分のキーワードを考えてくる)必要はありません。 筆記用具を準備して下さい。講習会開始前に関係資料等を当日会場で配布予定。					